



2021 年 6 月 2 日

各 位

会社名 株式会社 Kids Smile Holdings
代表者名 代表取締役社長 中西 正文
(コード：7084 東証マザーズ)
問合せ先 専務取締役 田上 節朗
(TEL. 03-6421-7015)

〈マザーズ〉投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会の動画配信を行いましたので、お知らせいたします。

● 配信状況

配信日時 2021 年 6 月 1 日 (火) 16:30～

配信方法 オンライン動画配信

動画 URL : <https://webcast.net-ir.ne.jp/70842105/index.html>

説明会資料名 2021 年 3 月期決算説明資料

【添付資料】

1. 投資説明会において使用した資料

KIDS SMILE HOLDINGS

2021年3月期 決算説明資料

2021年5月25日

株式会社Kids Smile Holdings

証券コード 7084

「教育を通じて社会に貢献する」

2021年3月期 連結決算概要 P2

2022年3月期 業績予想 P10

当社グループの中長期戦略 P13

3カ年方針と数値目標 P34

2021年3月期 連結決算概要

2021年3月期決算ハイライト

新型コロナウイルスの影響から通期の業績予想を厳しく見込んでおりましたが、様々な施策の効果により、当初の業績予想を上回ることができました。このような環境の中、継続的に新規案件への投資をおこなった結果、前期と比較して、EBITDAは増加いたしました。

(単位:百万円)	2020年3月期 通期業績	2021年3月期 業績予想※1	2021年3月期 通期業績	前期比 増減額	主な増減要因
売上高	7,275	8,852	9,113	1,837	認可保育所が11施設増加
EBITDA※2	251	-	324	73	認可保育所増加に伴う減価償却費の増加
営業利益	▲323	▲682	▲382	▲58	園の継続的な新設及び新型コロナウイルス感染症の影響
経常利益	1,885	651	983	▲901	認可保育所新設時の補助金が23億円から14億円へ約9億円減少
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,175	387	547	▲627	当期減損損失として特別損失を1.3億円計上

※1:2020年8月14日発表の2021年3月期業績予想

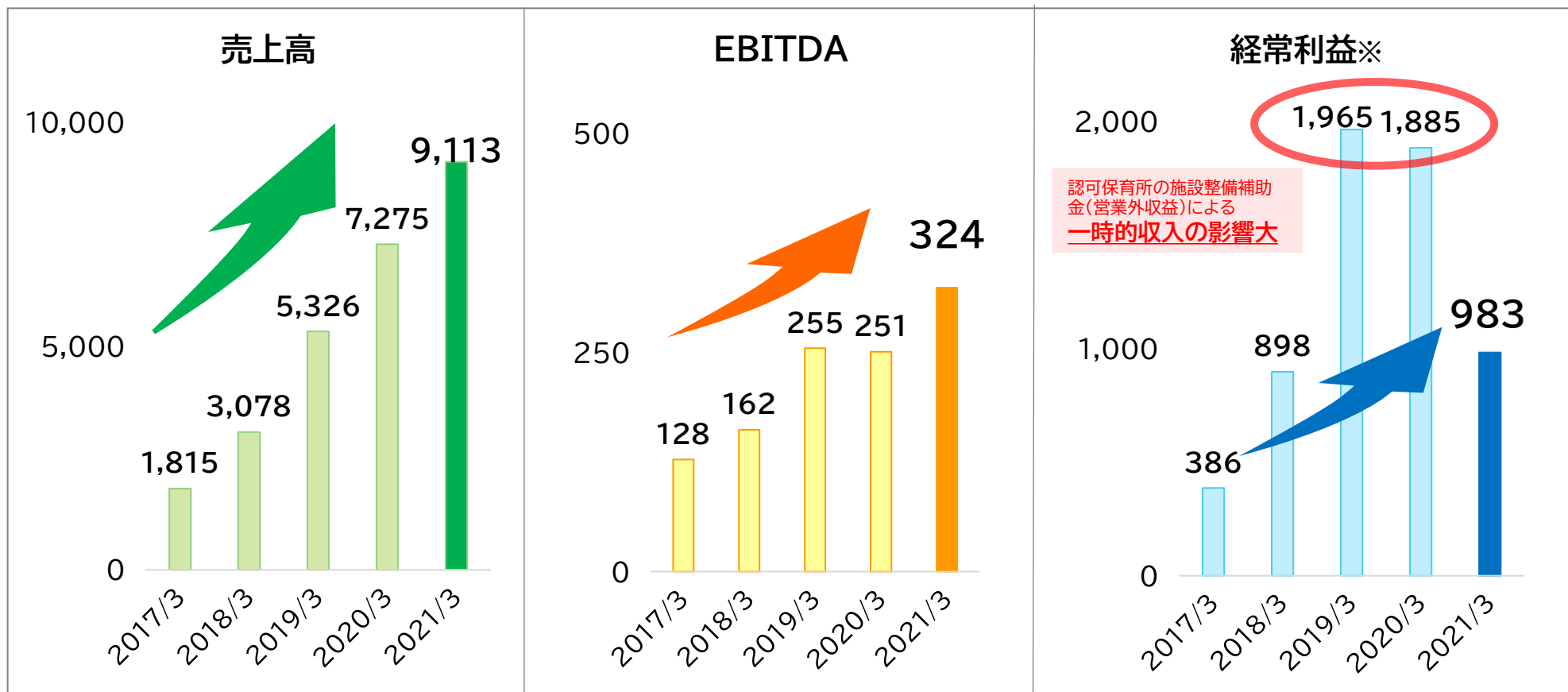
※2:EBITDA=営業利益+減価償却費

業績推移

施設数の増加に比例して、売上も増加しております。

既存施設の収益力の向上に伴い、**EBITDAも増加傾向で推移しております。**

(2018年3月期までは単体、2019年3月期以降は連結の数値を記載)



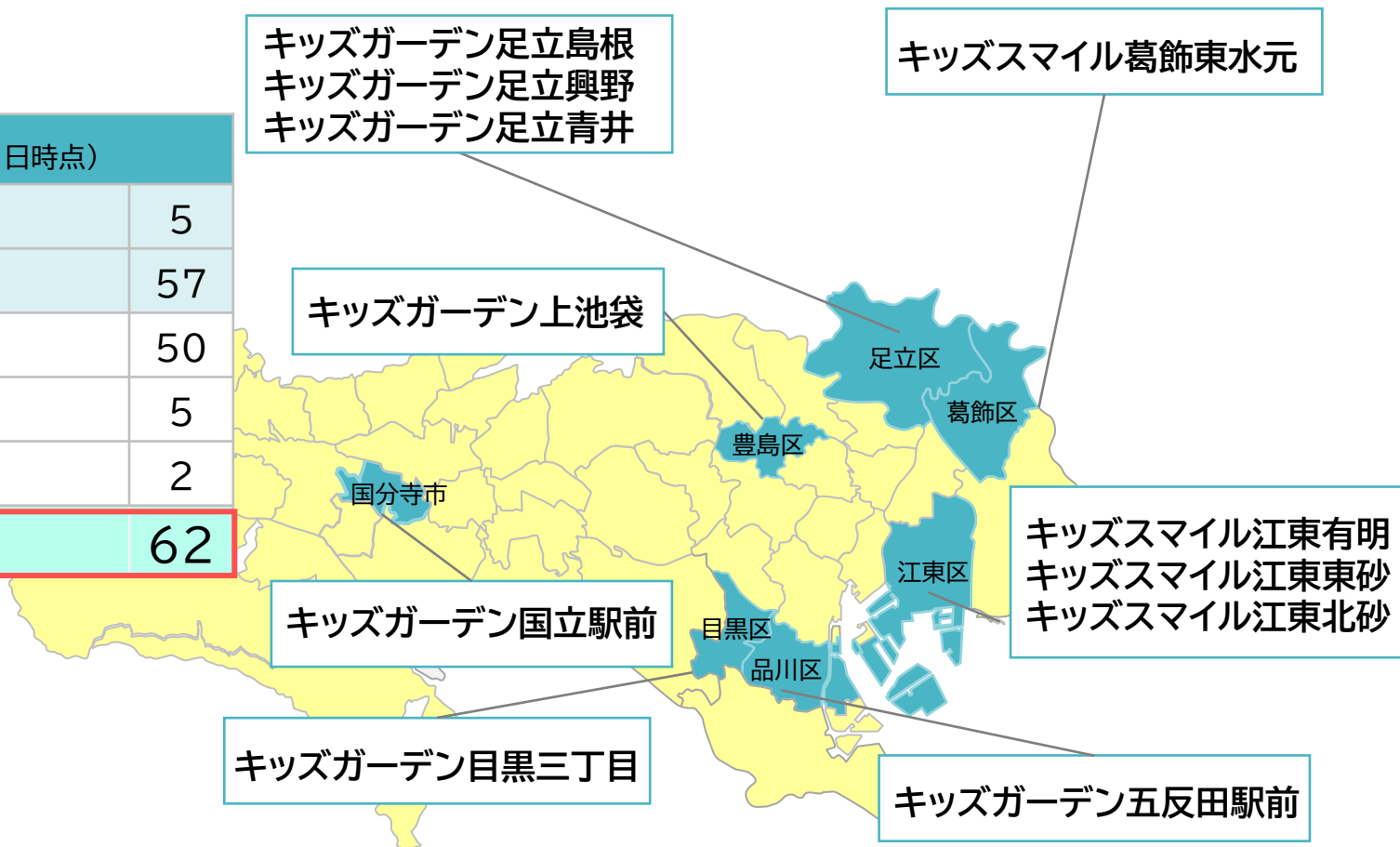
※経常利益については、施設整備費補助金(営業外収益)の影響により、変動しております。

(百万円)

運営施設の状況

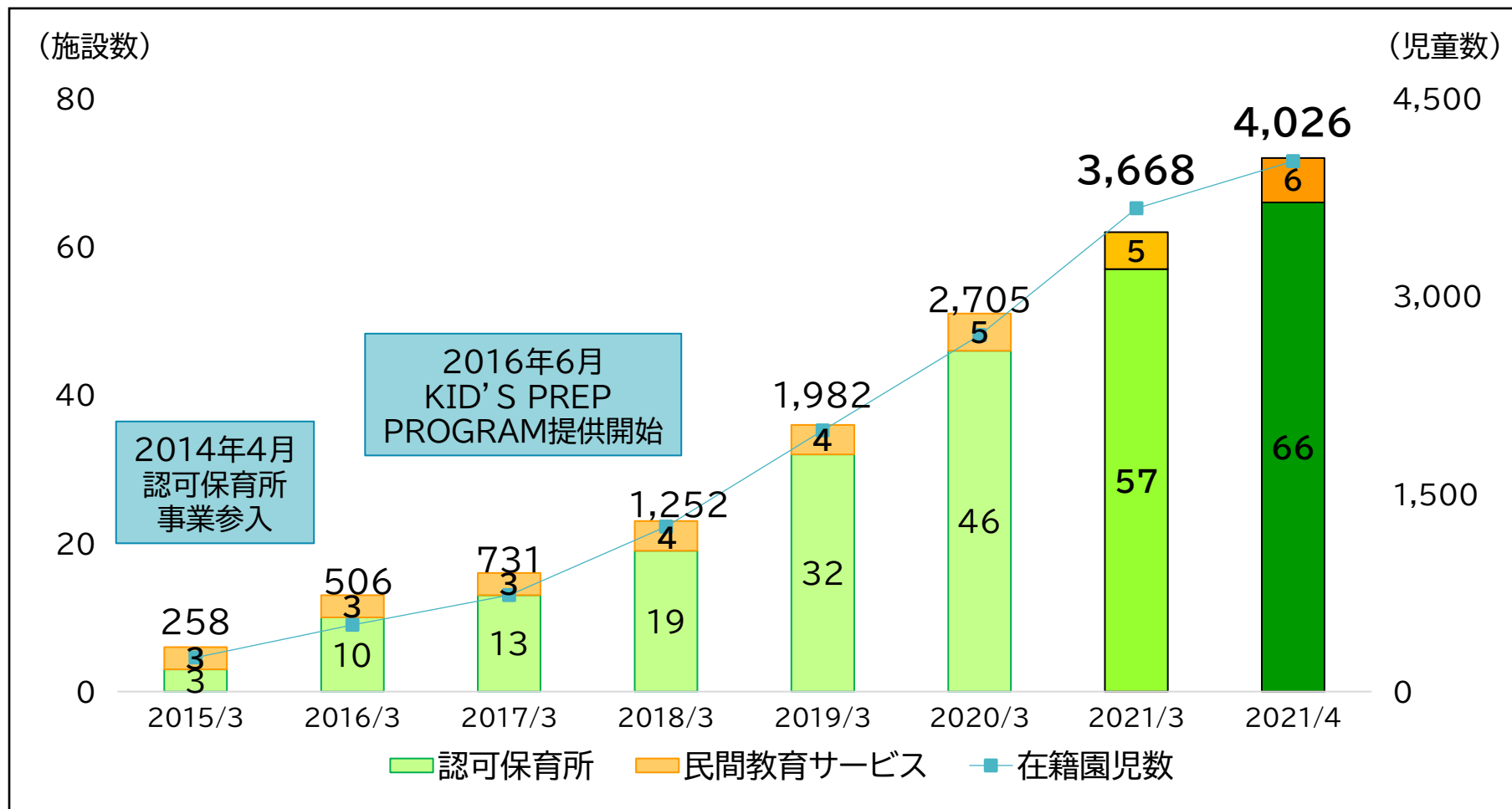
2021年3月期において東京都に認可保育所を11施設開設し、2021年3月末時点での運営施設数は合計で62施設となりました

施設数(2021年3月31日時点)	
民間教育サービス施設	5
認可保育所	57
東京都	50
神奈川県	5
愛知県	2
計	62



運営施設数及び在籍児童数の推移

運営施設数の増加に伴って在籍児童数も増加してまいりました。



認可保育所新設園の運営状況

開設時に入所した園児の年齢が上がる事により、充足率も向上して、黒字化して参ります。
2021年3月期に新規開設した認可保育所も来期以降の順次黒字化を想定しております。

黒字化した園の割合※

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (実績)
【9割超が黒字化】 既存園開設後 25か月～	9割超が黒字化	9割超が黒字化
【7割超が黒字化】 既存園開設後 13～24か月	7割超が黒字化	7割超が黒字化 10 / 14 施設
新設園開設後 0～12か月	1 / 14 施設	0 / 11 施設

※本社費を除く各施設ごとの管理上のP/Lにおける損益

連結貸借対照表

(単位:百万円)	2020年3月期	2021年3月期	前期比 増減額	主要な増減要因
流動資産	2,545	3,679	1,133	現金及び預金 +6億円 未収入金 +4億円
固定資産	8,979	10,264	1,285	施設の内装等 +9億円 施設の敷金等 +3億円
資産合計	11,525	13,944	2,419	-
流動負債	3,616	4,999	1,383	短期借入金 +10億円
固定負債	3,181	3,654	472	-
負債合計	6,798	8,654	1,855	-
純資産	4,726	5,290	563	利益剰余金 +6億円
負債・純資産合計	11,525	13,944	2,419	-

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2020年3月期	2021年3月期	前期比 増減額	主要な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	696	1,526	829	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,307	1,601	▲705	開設補助金収入は前期23億円に対し 今期14億円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,349	▲2,327	21	施設関連に前年同水準の20億円程度を 投資
フリーキャッシュフロー	▲42	▲725	▲683	主に、開設補助金などの 一時収入の減少
財務活動によるキャッシュ・フロー	871	1,339	467	前期は上場時の新株発行9億円、 今期は短期借入金10億円
現金及び現金同等物の期末残高	1,526	2,139	613	-

※フリーキャッシュフロー = 営業活動によるCF + 投資活動によるCF

2022年3月期 業績予想

2022年3月期 業績予想

新型コロナウイルスによる民間教育サービスの休園措置のリスクや大型の新規事業への初期投資を勘案しております。

(単位:百万円)	2021年3月期 通期業績	2022年3月期 業績予想	前期比 増減額	前期比
売上高	9,113	10,450	1,337	+14.7%
EBITDA	324	245	▲79	▲24.2%
営業利益	▲382	▲590	▲208	-
経常利益	983	820	▲163	▲16.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	547	500	▲47	▲8.8%

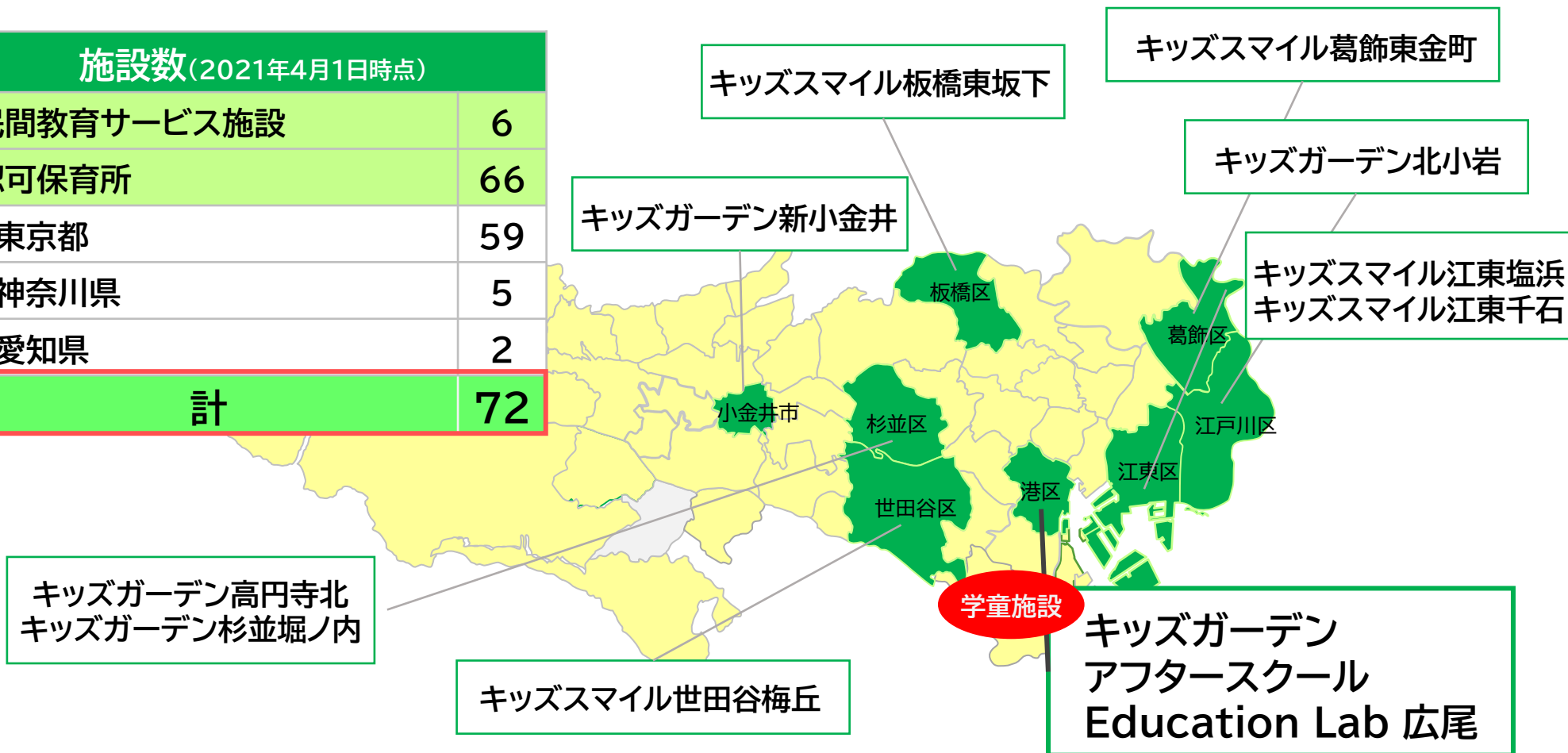
業績予想の前提

- ・ 新施設は、2021年4月に認可保育所が9園、民間教育サービス1施設の合計10施設が開園済
- ・ 今期中に開設予定の大型施設の初期投資費用を見込む
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による民間教育サービスの休園措置なども想定

2021年4月 開設施設数

認可保育所9園及び当社初となる学童施設を開設いたしました。
今期中に当社のフラッグシップとなる大型施設を開設予定です。

施設数(2021年4月1日時点)	
民間教育サービス施設	6
認可保育所	66
東京都	59
神奈川県	5
愛知県	2
計	72



当社グループの中長期戦略

企業ビジョン

「教育を通じて社会に貢献する」

KIDS SMILE HOLDINGS



私たちは、幼児期における非認知能力の育成こそが、人が生涯において幸せに暮らし、心豊かな生活を送るための重要な基盤になると考えております。

「生活の場としての保育」から「幼児教育の場としての保育」へと変革を進め、社会に必要な基盤としての保育施設を安定的に運営するとともに、非認知能力の育成を軸にした幼児教育に取り組んでまいります。

また、0～9歳における全ての幼児教育サービスを提供する「キッズガーデン教育圏」を築き広めてまいります。

中・長期戦略の概要 (キッズガーデン教育圏の実現・確立に向けて)

「教育を通じて社会に貢献する」
変わらぬ価値

= 当社グループの強み

◇教育的価値

└ 幼児教育の徹底追及によって、子どもの成長を実現する価値の提供

◇体験価値

└ お客様のニーズと真摯に向き合い、期待を超える価値の提供

「変化する市場環境」

◇新型コロナウイルスの影響

└ 一時的な出生数の減少

◇待機児童の減少

→ 選ばれる園づくりの重要性が増大

◇幼児教育無償化

→ 可処分所得の増加による、

民間教育サービスへの需要拡大

「キッズガーデン教育圏
の確立に向けた戦略」

■ 既存施設の充実

└ 当社グループの強みを生かした

「選ばれる」園づくり

■ 民間教育サービスの拡充

└ 補助金に左右されず「質の高い幼児教育サービスに対する高いニーズに応える」体制

└ 民間教育サービスへの重点投資

└ 公的サービスと民間教育サービスの割合1:1

■ 事業領域の拡大

└ 0歳～9歳までの一貫した幼児教育の実現

└ 業務提携

キッズガーデン教育圏の確立

拡大

- ✓ フランチャイズ展開
- ✓ 海外展開
- ✓ M&A

キッズガーデン教育圏

※子どもの成長に重要な0～9歳における全ての幼児教育サービスを提供する当社グループの構想

当社グループの特徴

当社グループは、認可保育所事業と民間教育サービスを展開しております。
二つの事業の強みやノウハウを相互に補完・活用する事で成長してまいりました。

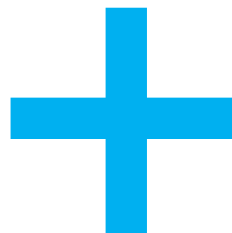
認可保育所



自治体からの補助金
と指針に基づく運営



高い公共性により社会の基盤を支え
ると共に、当社グループの基盤を長期
安定的に支える事業



民間教育サービス



補助金に頼らず、
当社の方針に基づく運営



質の高い幼児教育サービスに対する高
いニーズに応えると共に当社グループの
更なる成長を支える事業

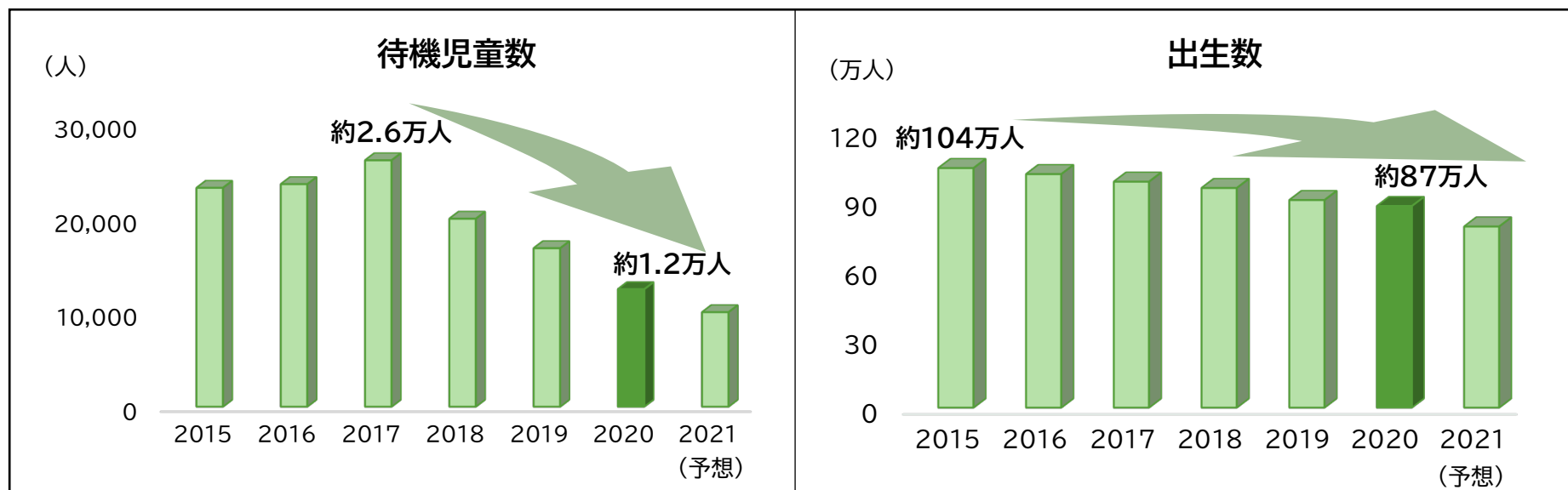
幼児教育におけるハイブリット型(公的サービスと民間教育サービス)の事業展開

市場環境の変化



市場環境の変化①

市場環境の変化により、利用者のニーズを的確に捉えたサービスの提供が求められる時代になります



■待機児童数の減少、コロナの影響による出生数の減少に伴い、一時的に0～2歳児の保育需要が減少する見込みで、行政の施設整備策も進み、以前の想定よりも早く保育所の不足感が落ち着くと想定されます。

■保育所の定員充足率を維持するため、事業者は利用者の変化するニーズを的確に捉え、選ばれる園になることが求められます。

◎当社は「選ばれる園」として、開園当初からお客様に真摯に向き合い、お客様の求めるサービスを追求してきた民間教育サービスのノウハウを活かし、『選ばれる園づくり』を目指してまいります。

市場環境の変化②

認可保育所の利用者にとって、これまでの20年は、希望する園を選ぶことが出来ない環境でした。利用者が園を選べる環境に変化したことで、当社グループの強みが活きる時代が到来しました。

認可保育所
(行政へ利用者が申し込む)

従来

利用者が希望する園を
必ずしも選べる環境ではなかった



市場環境の変化

今後

利用者が園を選べる(希望が通りやすい)環境となる
◇園の特徴によって、利用者が保育園を選ぶ時代
└ 初めて利用者が園を選ぶことが出来る時代の到来
└ 『選ばれる園』づくりの重要性が増す

民間教育サービスのノウハウを駆使し、
保護者が選びたい園づくりに取り組んできた

当社グループの強みが
活きる時代の到来

当社グループの強み



当社グループが追求してきた価値

二つの価値を追求し、お客様に選んで頂ける園づくりに取り組んできた12年
この想いとノウハウこそが『保育園を選ぶことが出来る時代』で成長し続ける最大の武器

追求してきた二つの価値

◇教育的価値

└ 幼児教育の徹底追及によって、子どもの成長を実現する価値の提供

◇体験価値

└ お客様のニーズと真摯に向き合い、期待を超える価値の提供

プレスクール一体型保育所
「キッズガーデンプレップスクール自由が丘」
(開園前の様子)



✓ 2009年5月に開園

✓ 子どもの自主性や集中力を育てる「モンテッソーリ教育」や非認知能力育成の「レジヨ・エミリア・アプローチ」を取り入れたプログラムを実施

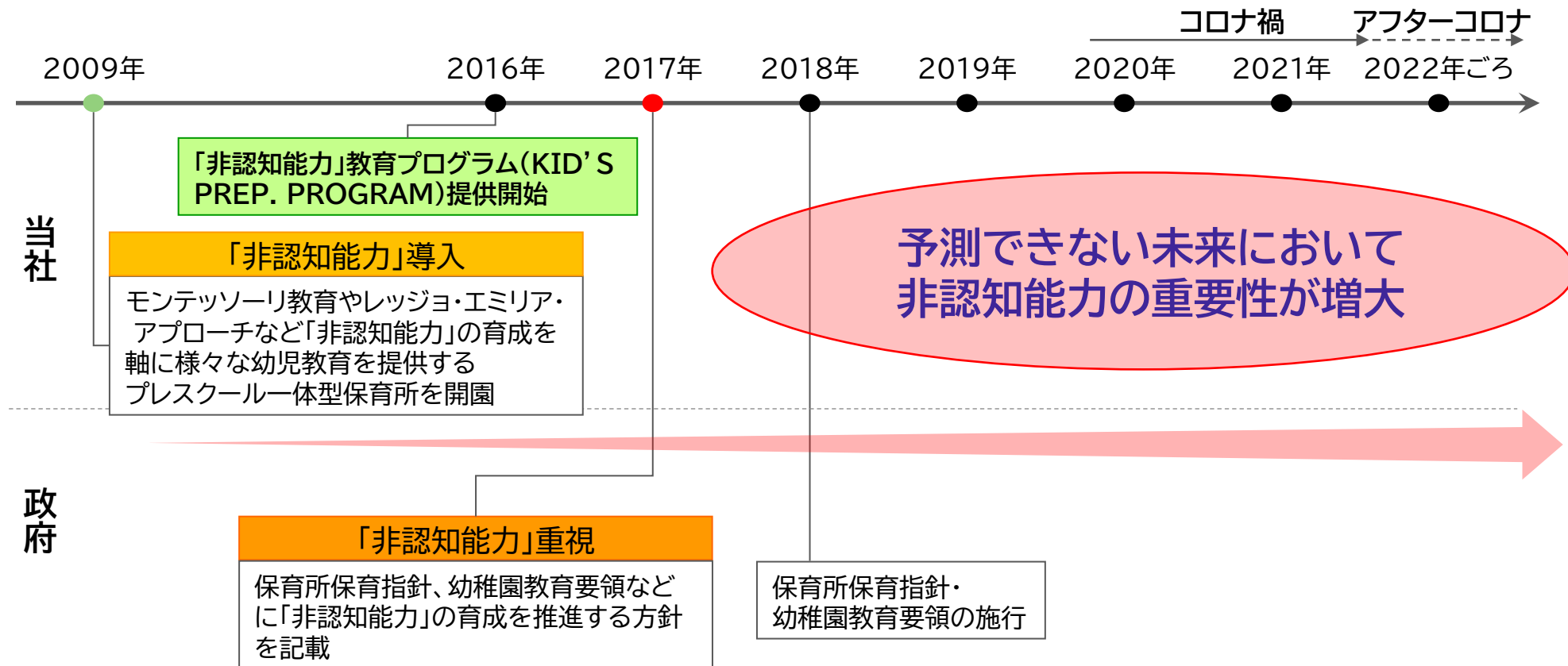
✓ 現在では、ウェイティングが出る都内屈指の人気施設



教育的価値を提供するための非認知能力育成の取り組み

当社は幼児期において重要な「非認知能力」の育成に先駆けて取り組んでまいりました。

非認知能力の重要性はOECDレポート※で提起され、政府も「非認知能力」の育成を重視する方針を打ち出しております。



※OECDレポート:2004年発表「スターティング・ストロングレポート」

オリジナル幼児教育プログラムの開発

創業当初から幼児教育における「非認知能力」の育成を重視しており、オリジナルプログラム“KID’S PREP. PROGRAM”を開発し、全園で提供しております。

KID'S PREP. PROGRAM



KID’S PREP. PROGRAMとは

KID’S PREP. PROGRAMは、幼児教育のパイオニアである株式会社伸芽会と当社グループ会社キッズスマイルプロジェクトが共同開発を行った、**幼児の知力向上と発想力育成を重視した「保育園・幼稚園における質の高い幼児教育」**を可能にするオリジナルプログラムです。

6歳までに身に付けたい「見る力」「聞く力」「話す力」「考える力」「行う力」の5つの力をバランスよく育て、小学校入学後に役立つ基礎力をしっかりと育成するとともに、**幼児期に必要な「非認知能力」を養うことができます。**

非認知能力とは

- 正解が一つではない問いに自分なりの答えを出すことができる
- 他人とコミュニケーションを取ることができる
- 自分の気持ちをセルフコントロールできる
- 積極的にものごとに取り組み、達成感を感じることができる

非認知能力の育成を通して、予測できない未来を生きる子どもたちを育みます

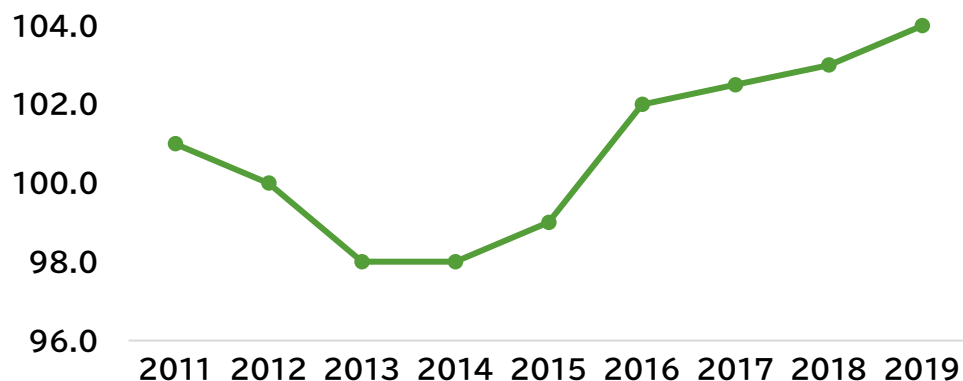
当社グループの成長戦略



民間教育サービスへの重点投資

当社グループの原点に立ち返り、民間教育サービスへの投資を強化することにより、『真のハイブリッド経営』（公的サービス:民間教育サービス=1:1）を実現致します。

実質可処分所得の推移(2012年=100とした指数)※1



■ 幼児教育無償化に伴う、財源年間約8,800億円※2

■ 幼児教育無償化に伴い、子育て世代の可処分所得が増加する見込み

◇ 増加した可処分所得により、民間教育サービスへのニーズは一層高まる

民間教育サービス:公的サービスの事業割合=1:1の実現を目指します。

※1:大和総研『2012年～2019年の実質可処分所得の推移と今後の展望』より
4人世帯(30代4人世帯子ども2名想定)

※2:内閣府より

幼児教育サービスにおける『真のハイブリッド経営』 (公的サービス:民間教育サービス=1:1)

認可保育所事業

└環境が変化していく中でも、選ばれ続ける園である為に、幼児教育に力を入れた園づくりを加速

民間教育サービス

└更なる成長を遂げるために、重点投資で施設数を拡大

認可保育所

主要施設

- ・ 認可保育所
(東京・神奈川・愛知)

収益構造

- ・ 自治体からの補助金による収入
- ・ 補助金は園児数や園児の年齢等により決定

展開地域

- ・ 補助金制度の充実により質の高い幼児教育の提供が可能であり、かつ子どもの数も多い東京中心

既存施設の強化

高い公共性により社会の基盤を支えると共に、
当社グループの基盤を長期安定的に支える事業

民間教育サービス

主要施設

- ・ プレスクール一体型保育所
- ・ ハイエンド向け学童施設
- ・ 幼児教室
- ・ 運動/野外体験教室 等

収益構造

- ・ 付加価値に応じた価格設定が可能
- ・ 顧客ニーズに対応することで高収益が見込める

展開地域

- ・ 現在の民間教育サービスを展開している東京を起点として、全国へ展開予定

重点投資

質の高い幼児教育サービスに対する高いニーズに
応えると共に当社グループの更なる成長を支える事業

0～9歳まで一貫したサービスの提供

6歳までを対象とした従来のサービスの展開に加え、9歳まで対象を拡大し、子どもの成長に沿った一貫したサービスの提供を実現してまいります。

就学前の乳幼児期であり、親・保育所が成長を支える時期。非認知能力の育成が基礎となる

引き続き子どもの成長を親と共に支える時期。その後の自立、社会を生き抜く力の基礎を作る

0歳

6歳

9歳

公的サービス

認可保育所

小学校

民間教育サービス

プレスクール一体型保育所・幼児教室

学童

0歳～9歳までの一貫した幼児教育の実現

2022年3月期にサービスを拡大

0歳～9歳までの一貫した幼児教育におけるフラッグシップとなる大型施設を今期中に開園予定

2022年3月期 成長に向けた投資①

2021年4月にハイエンド向けの学童教室を広尾に開設しました。
当社初となる6～9歳の子どもを対象とした施設です。

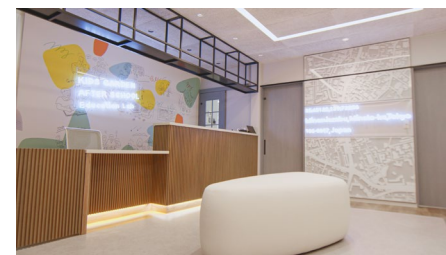


キッズガーデンアフタースクール Education Lab 広尾

宿題対応も含めた通常のお預かり機能に加え、しっかりとした教育サービスを提供することを目的に開設した教育型プライベート学童施設。今後も施設数を拡大予定。

特 徴

- ・ 広尾駅から徒歩1分の好立地
- ・ 小学校の教室約3倍の広さを有する施設
- ・ 行き帰り無料のバス送迎
- ・ STEAM教育、コーディネーショントレーニングを取り入れた運動、小学生向けモンテッソーリ「モンテッソーリ・エレメンタリー教育」など最新のプログラムを取り入れた豊富なレッスン



2022年3月期 成長に向けた投資②



キッズガーデンプレップスクールフラッグシップ施設

都内にキッズガーデン教育圏構想のフラッグシップとなる0歳～9歳を対象とした、プレスクーラー一体型保育所と学童施設の複合した大型施設の今期中の開設を検討しております。



※写真は、既存プレップスクールのものです。

キッズガーデン教育圏

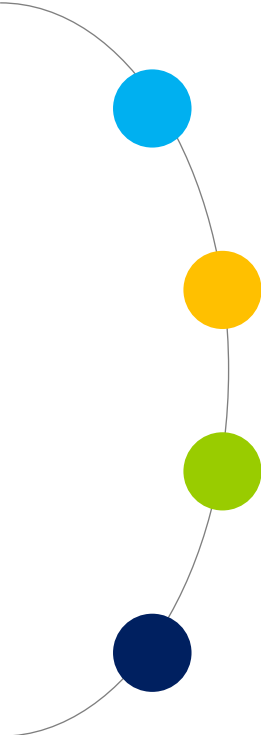


キッズガーデン教育圏

未来に輝く子どもたちを育てることを目的とするキッズガーデン教育圏の確立・拡大に向けて、その基盤整備を進めてまいります。

キッズガーデン教育圏※の確立・拡大

※子どもの成長に重要な0～9歳における全ての幼児教育サービスを提供する当社の構想



『二つの事業の柱による真のハイブリッド経営の実現』

(公的サービス:民間教育サービス=1:1)

- ・ 認可保育所における選ばれる園づくり
- ・ 民間教育サービスへの重点投資
- ・ 民間教育施設数の拡大

0～9歳まで一貫したサービスの提供

- ・ サービス対象年齢を0歳～6歳から0歳～9歳へ拡大
- ・ 子どもの成長に重要な時期における、一貫した非認知能力の育成

事業ネットワークの構築

- ・ 共に構想を進めるキッズガーデン・ネットワークの構築
- ・ フランチャイズ、M&A、業務提携などを活用して連携

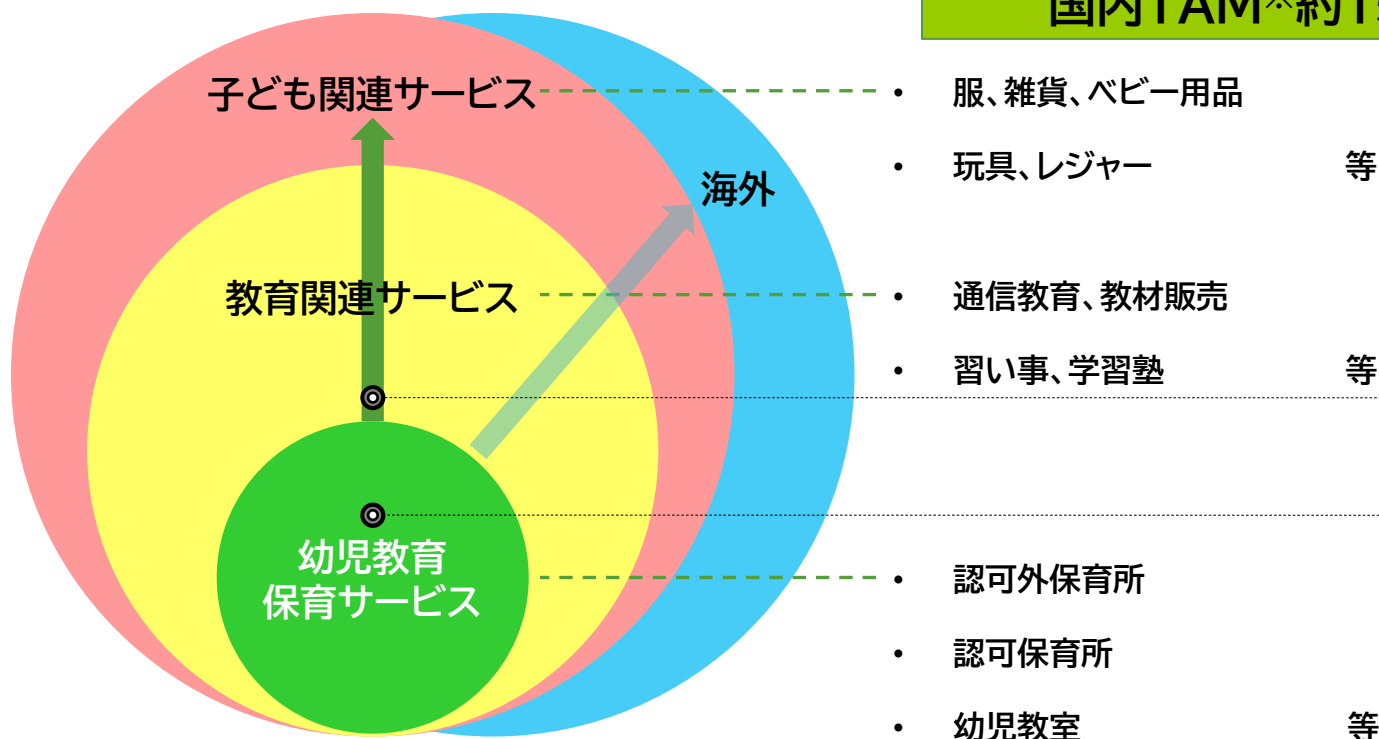
エリアの拡大

- ・ 国内では全国の大都市圏に展開
- ・ 海外の大都市を中心とした地域への展開

将来の事業展開イメージ

当社の将来的な事業ドメインは、国内外の子ども市場全体と捉えており、業務提携やM&A、フランチャイズ等の手法も活用して順次拡大します。

国内TAM※約15兆円



2020年9月 業務提携

 ヒューリック株式会社

2015年2月 業務提携

 伸芽会

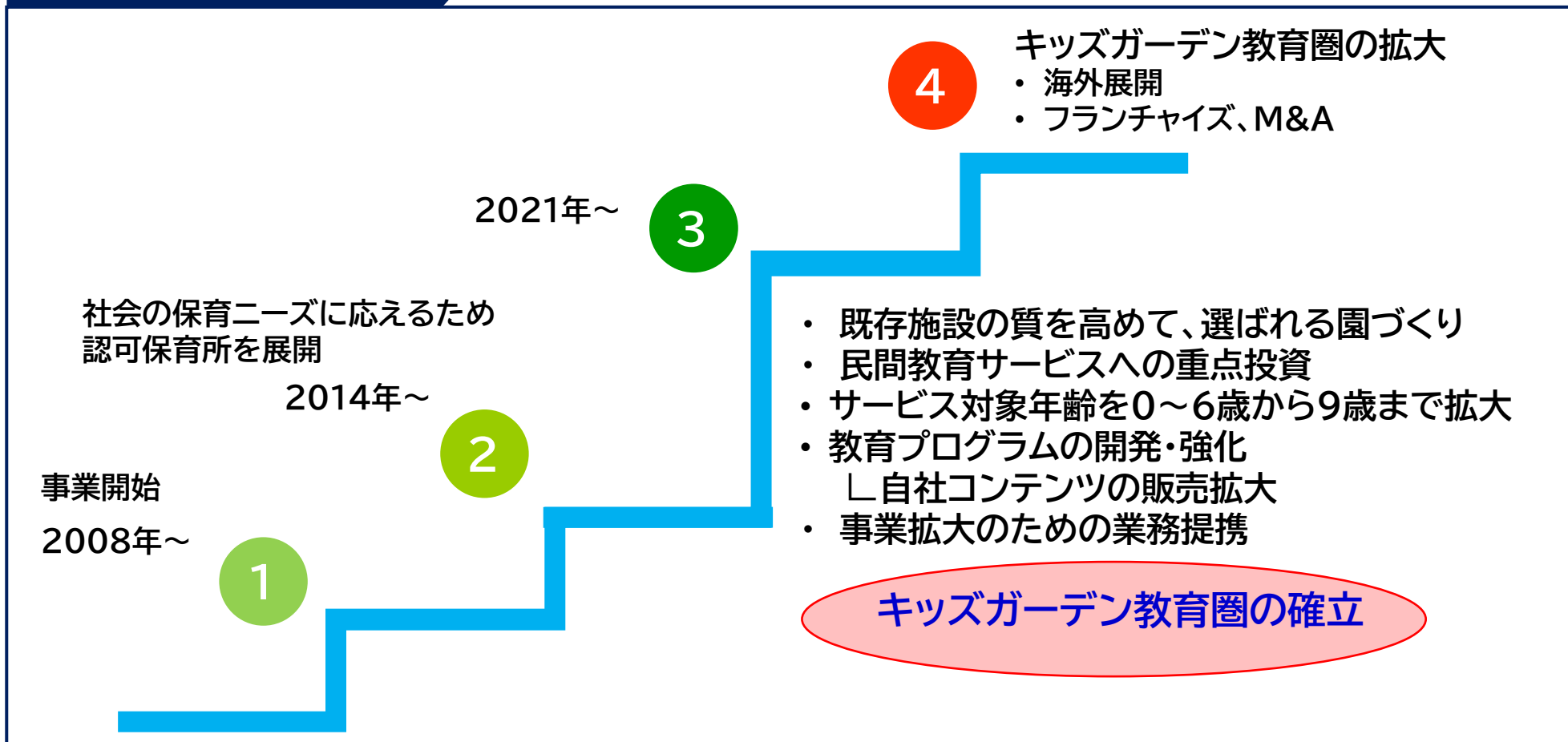
※Total Addressable Market: 獲得可能な最大市場規模

出所: 矢野経済研究所

当社グループの成長ステージ

認可保育所を主力として展開してきましたが、今後はキッズガーデン教育圏の確立と拡大を視野に民間教育サービスへの投資を拡大してまいります。

中長期目標



3カ年方針と数値目標

3か年の方針

今期からの3年間に、民間教育サービスへの投資を拡大し、高収益体質の事業構築を進めてまいります

公的サービスと民間教育サービスの事業規模1:1への転換を目指し、成長基盤を構築いたします。

全体目標

- ・ 「選ばれる園」としての地位を確立し、当社ブランドを浸透
- ・ 0～9歳を一貫して育てるサービスへの拡大

2022年3月期

2023年3月期

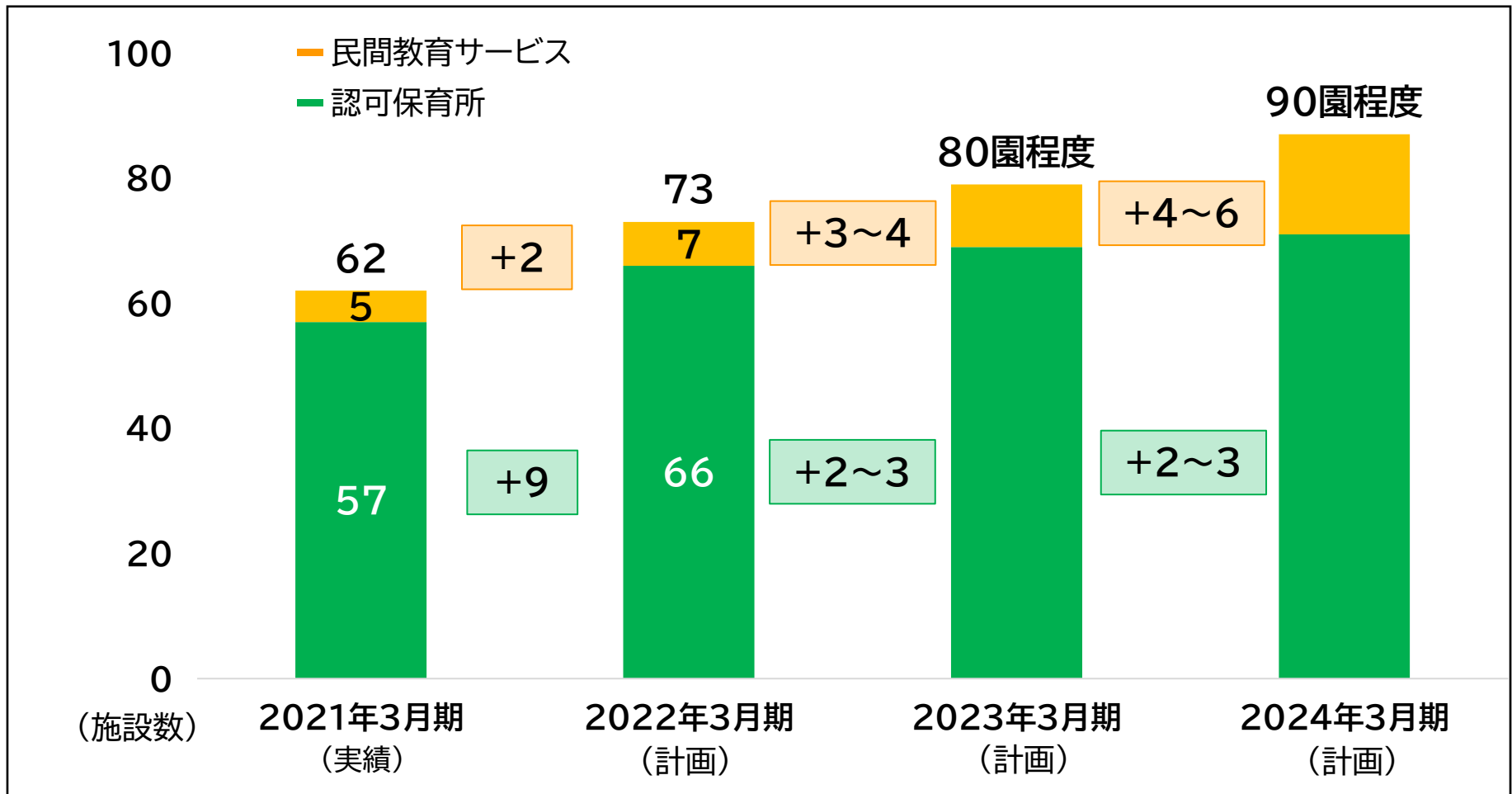
2024年3月期

基本施策

- ✓ 選ばれる園としてのサービス進化と充足率向上
- ✓ 新規施設・新規サービスの立ち上げ
- ✓ 子どもの成長を助ける社内人材の育成
- ✓ システム活用による業務効率化

運営施設数の開設計画

既存施設の安定的な運営を基盤に、今後は民間教育サービス施設に重点投資し、収益力を強化してまいります。



業績目標

営業利益の黒字化を図り、2024年3月期に売上高120億円規模、EBITDA11億円規模を目指してまいります。

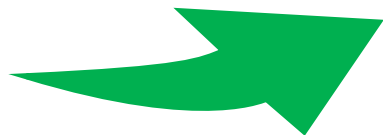
単位(百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	2023年3月期 目標	2024年3月期 目標
売上高	9,113	10,450	11,000～ 12,000	12,000～ 13,000
EBITDA	324	245	800～ 900	1,100～ 1,200
営業利益	▲382	▲590	▲100～ 100	300～ 400
営業外損益	1,365	1,410	300～ 400	300～ 400
経常利益	983	820	300～ 400	600～ 700

成長イメージの更新

2021年3月期第2四半期決算説明補足資料で公表いたしました『5年後の成長イメージ』については、新型コロナウイルスの影響が継続している事も鑑みて、2027年3月期での達成を目指します。

【2026年3月期の数値イメージ】※

- 施設数:130施設程度
- 売上高:170億円～180億円程度
- 営業利益:10億円規模
- EBITDA:20億円規模

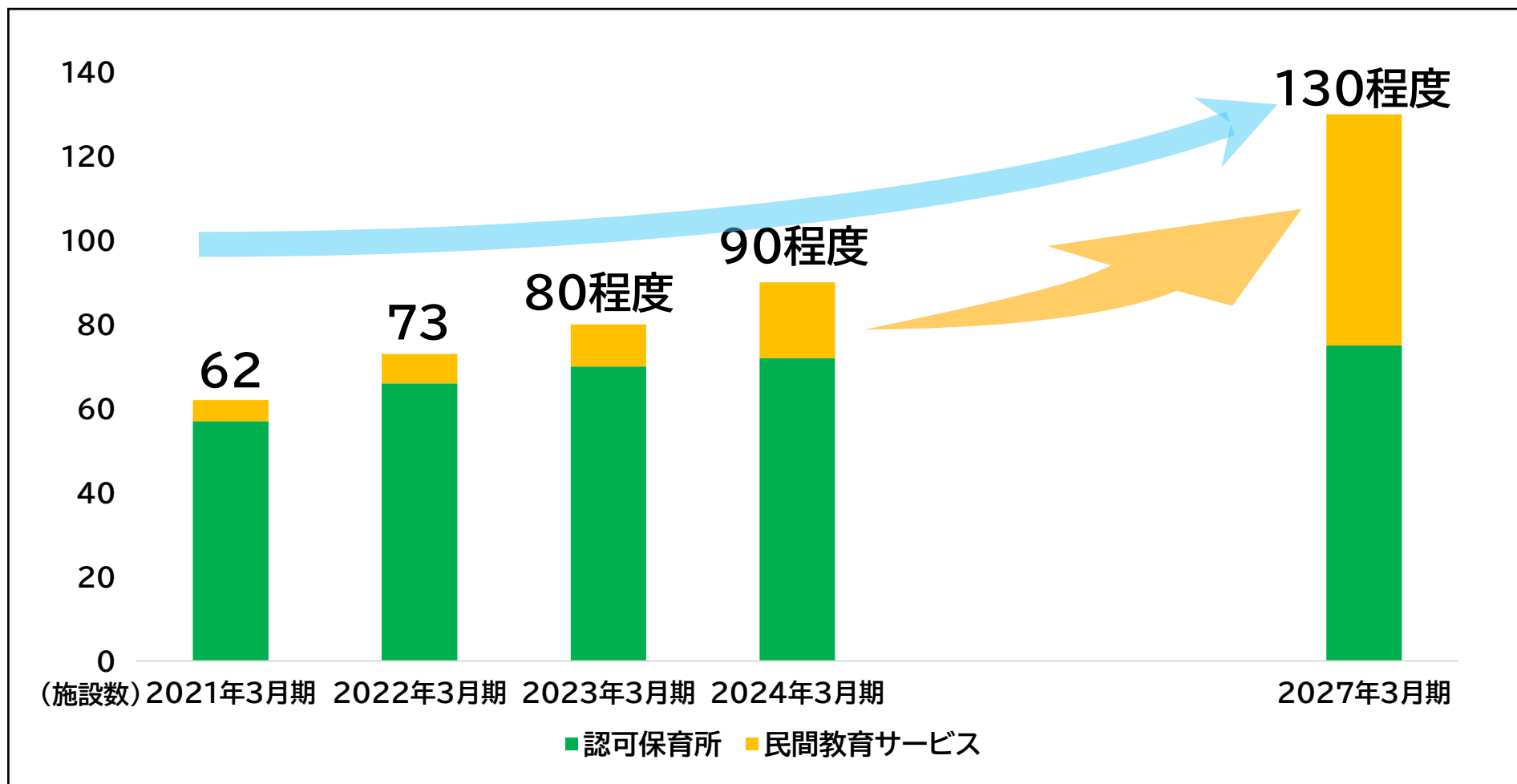


2027年3月期での達成へ

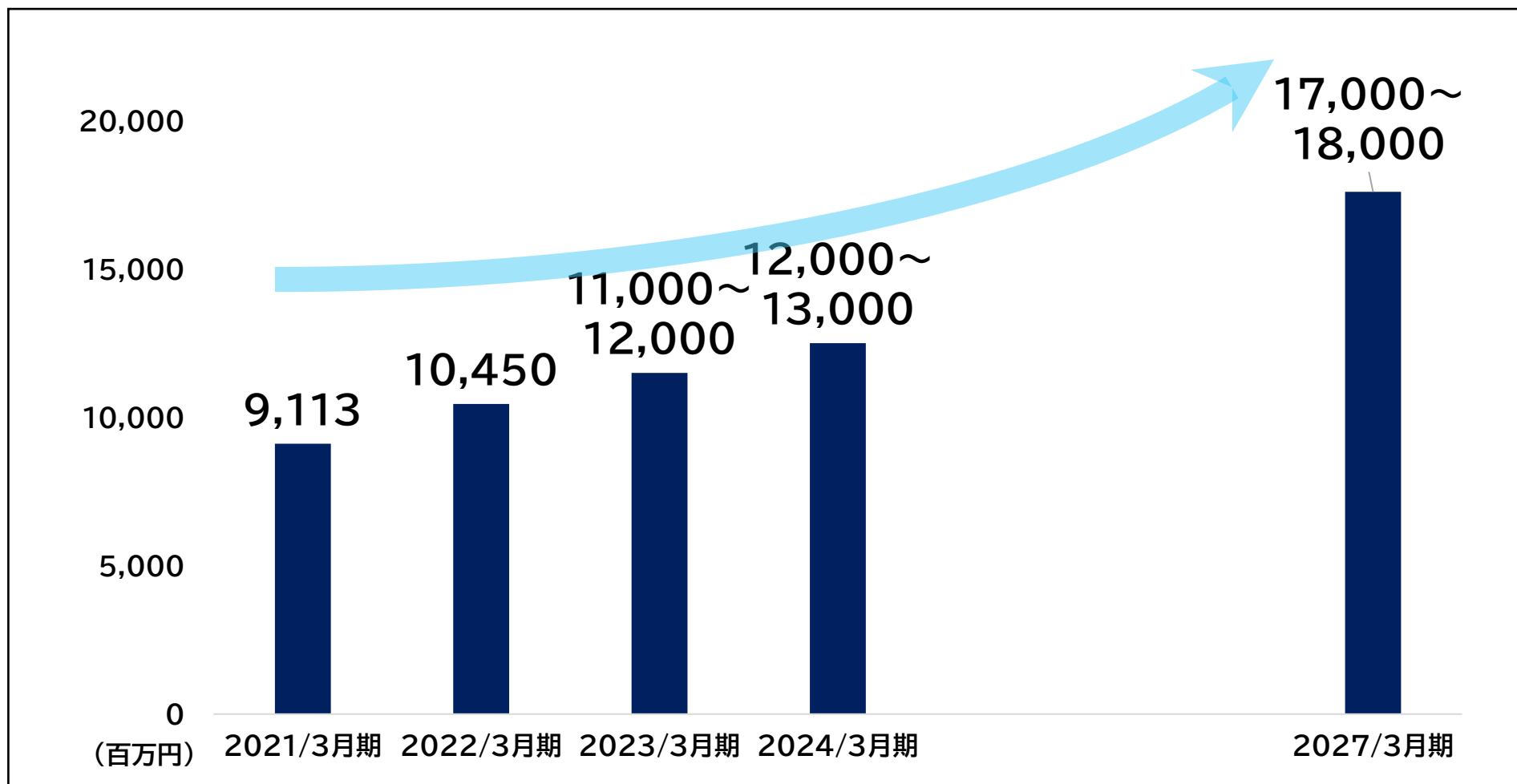
※2021年3月期第2四半期決算説明補足資料より

中期業績目標 施設数

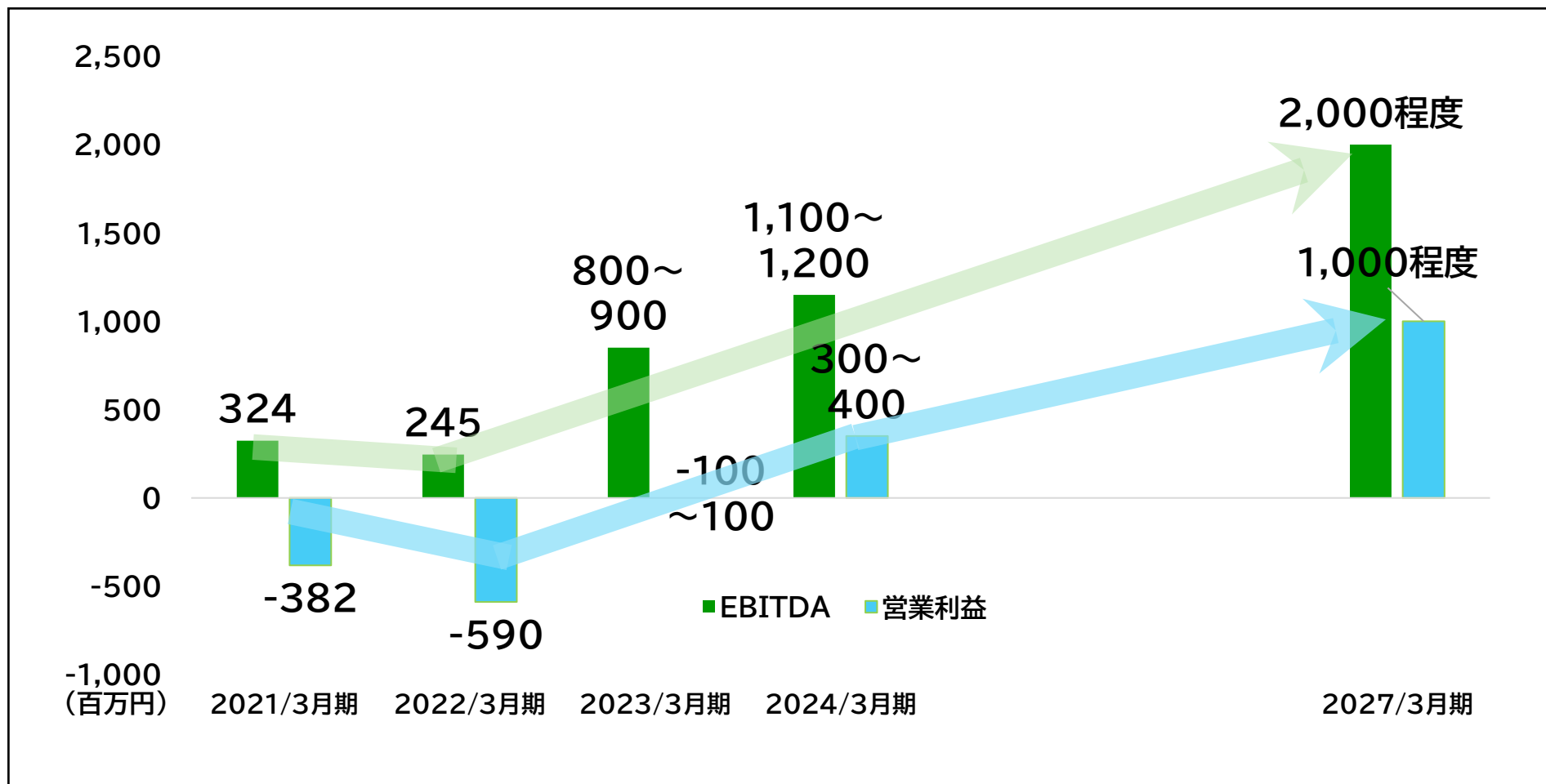
2027年3月期130施設を目指し、今後は民間教育サービスの施設数を拡大してまいります。



中期業績目標 売上高



中期業績目標 EBITDA・営業利益



更なる成長へ

この写真は、当社グループの最初の園となった『キッズガーデンプレップスクール自由が丘』の建物を私が初めて内覧した2008年秋に撮影したものです。ここに保育園を作り、「幼児教育を通じて世の中の役に立ちたい」との想いで、2008年12月に会社を設立いたしました。

それから12年の月日と共に、幾多の困難を乗り越え、昨年3月4日に東京証券取引所マザーズ市場へ上場させていただきました。

上場後、初めての期初からの決算となった2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症の影響もございましたが、当初発表させて頂いた業績予想を上回る業績となりました。

創業14年目となる2022年3月期は、売上高100億円を超える業績予想とさせて頂きましたが、創業当時の初心を忘れることなく、『教育を通じて社会に貢献する』の社是の元、社員一丸となって、更なる成長を目指して、邁進してまいります。

今後も、当社グループへの変わらぬご支援のほど、よろしくお願い致します。



株式会社Kids Smile Holdings
代表取締役社長 中西 正文

免責事項

本資料の取り扱いについて

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご承知おきください。